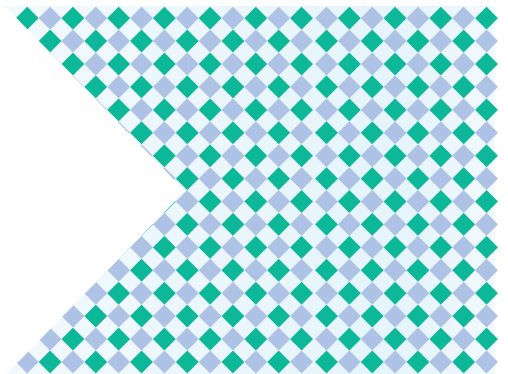


GPN

Column

グリーン購入ネットワーク コラム Vol.4



地域レベルの持続可能な消費と生産

ーローカルSCP推進の秘訣ー

中口 毅博

(GPNアドバイザー／芝浦工業大学 教授)

1. はじめに

2015年9月、ニューヨークで開かれた国連総会において、持続可能な開発目標（以降SDGsと称す）が採択され、気候変動、生物多様性、平和、暴力撤廃、参加と透明性など17の目標が掲げられ、全世界がこれに取り組むことになった。この17の目標は、これを達成することにより、「誰一人取り残さない」公平公正で幸福な社会を築くことを目指している。日本政府も2016年12月にSDGs実施指針を定め¹⁾、毎年アクションプランを策定し²⁾、各省庁が連携して取り組みつつある。

そのSDGsの17の目標のなかで、12番目に「持続可能な消費と生産」(Sustainable Consumption and Production：以降SCPと称す)が掲げられている³⁾。2017年に開催された第25回環境自治体会議しほろ会議では、「生産地と消費地の連携による持続可能な地域づくり」をテーマとしたが、これは地域レベルのSCP（以下、本稿では「ローカルSCP」と称する）に取り組むことの必要性を示しているといえる⁴⁾。

そこで本稿では、ローカルSCPの定義・内容や自治体のローカルSCP施策の現状を整理したうえで、地域レベルの

持続可能な消費と生産の方向性ーローカルSCP推進の秘訣ーについて論じるものとする。

2. 地域レベルの持続可能な消費と生産

(ローカルSCP)とは

(1) ローカルSCPの定義

ローカルSCPについて、筆者は以下のように2つのタイプで定義した⁵⁾。

【タイプ1】地域内の生産・流通・消費・廃棄の一連のプロセスを持続可能にしていくこと

【タイプ2】地域の構成員が（地域を越えて）取り組む生産・流通・消費・廃棄行動を持続可能にしていくこと

この2タイプの定義の模式図を図1に示した。

(2) ローカルSCPの意義と効果

次に、ローカルSCPの意義や効果について、2つのことを指摘したい。

まず第1に、地域内のSCPを推進することは、地域の持続可能性という観点から考えた場合に、生産と消費が地域

1) 首相官邸持続可能な開発目標（SDGs）推進本部（2016）持続可能な開発目標（SDGs）実施指針。 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai2/siryou1.pdf>
 2) SDGs推進本部（2019）SDGsアクションプラン2020ー2030年の目標達成に向けた「行動の10年」の始まりー。34pp。 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai8/actionplan2020.pdf>
 3) これらの動向は地球環境戦略研究機関（IGES）が把握しており、同機関の堀田氏や渡部氏の著作に詳しい。堀田康彦（2014）SDGsにおける持続可能な消費と生産（SCP）。第30回OECC海外環境協力セミナー。 <https://pub.iges.or.jp/pub/sdg> 渡部厚志（2016）持続可能な消費と生産10年計画枠組みー国際的なパートナーシップの機会として。『つな環』第27号、p13。など
 4) このテーマを選定した理由はいうまでもなく、士幌町を含む北海道が農産物の一大生産地であることによる。
 5) 中口毅博（2018）地域における持続可能な消費と生産の現状と展望。『環境自治体白書2017-2018年版』所収、p20-33。

[続きはGPN会員専用ページからご覧いただけます。](#)